

第7回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年10月31日 木曜日 午後1時30分～午後3時11分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	○	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	×		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	×	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	×
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	○
	泰地 ひとみ	×		田伏 ひとみ	×
	京谷 常美	○		三浦 和則	○
	宍戸 一江	○		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	○	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	×
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	×			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○細江教育推進課長

皆様こんにちは、それでは定刻になりました。

ただいまの出席者数は16名でございます。審査会条例第7条3項の規定に基づき、委員の過半数を超えておりますので、ただいまから第7回洞爺湖町教育行政審議会を開催いたします。

それでは、次第2、会長挨拶でございます。会長よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

改めましてこんにちは。

お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

今日の函館も天気が良くて、気持ちよくこちらに運転して参りました。非常に内浦湾が眺め良くて、駒ヶ岳も綺麗に見えて、そしてこの洞爺湖町の環境が本当にいいなということを改めて感じながら今日は参りました。

いよいよ審議会も7回ということで、佳境に入ってくるといいですか、今日は何か事務局の方からも三つの観点に沿って、いろいろと説明があります。ぜひ、各委員の皆様の忌憚のないご意見等々いただきながら、ぜひ洞爺湖町の子どもたちのためにお力添えいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第3に関わりまして、議事(1)の内容について、事務局の方から説明を聞きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

こんにちは山本です、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは資料をめくっていただいて、資料①洞爺湖町立学校の適正配置と校舎施設について。今までの会議、平成25年というところでまとめさせていただきました。前回の会議を受け委員の皆様から出された内容を載せております。今日は具体的な部分になりますけれども忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

それでは、平成25年の部分ですけれども、10年前の部分も含めてというところになっております。1番、学校種別の視点ということで、10年前、小中学校の区分についてどうするかというところなんです。3番、学級数の視点と部分では、文部科学省から出されております、望ましい学級規模を原則として、存続する学級規模、原則として統廃合を検討する規模、ということを示されております。児童生徒数の視点、児童生徒数の教育環境に与える影響も考慮するというところなんです。通学時間の視点ということで、スクールバスの利用は45分程度というところなんです。地域性の視点、地域事情を十分考慮して地域の声を尊重するというところなんです。施設整備の視点というところでは、安全のための施設確保、適正配置、また財政の適正運用を総合的に検討、というようなところで提言がまとめられております。

その翌年、平成 26 年の部分ということで、各小中学校の適正配置計画というところ  
です。虻田小学校のところで、当時児童数は緩やかに減少してくるというところす  
けども、現時点で果たして緩やかなのかというところは、現時点ではさらに進んでく  
るのかなと思っております。温泉小の部分で、複式学級が続くと見込まれていますけ  
ども、引き続き保護者、地域の皆さんと協議を進めていくことが適当と考えていると  
いうところです。とうや小学校、若干の減少がありますけど、このまま継続というよ  
うなところです。虻田中学校も生徒数が緩やかというところなんですけども、現時点  
はどうなのかなということ。温泉中学校の部分に関しましては、平成 28 年 4 月 1  
日に閉校ということで、虻田中学校にというところです。

花和地区の方においては、洞爺地区と、虻田地区の両地区を選べるというところ  
で、検討すべき意見もいただき保護者の意見を踏まえて対応するというところで、花  
和地区の方におかれましては、両地区より選択するというような状況です。洞爺地区  
洞爺中学校、全学年 30 名程度で見込まれているというようなところで、当面は現状維  
持として適正配置については保護者、地域の皆さんと協議を進めていくことが適当と  
考えるということです。

次のページに行きまして、平成 31 年の洞爺湖町学校施設長寿命化計画というのが出  
されました。その部分で、校舎・体育館の目標使用年数と大規模改修の周期、長寿  
命化改修の周期を記載しております。(4) はそれぞれの小・中学校の建設年と、現時  
点での経過年数を記載しております。(5) 今後の児童生徒の推移ということを含め  
て、基本台帳から算出して、今後の学級数というようなところから考えていった場合  
に、特別支援学級に在籍する児童生徒を除いた見込みがちょっと立たないため、通常  
学級に在籍するとして数値を上げております。

次のページへいきます。これまでの行政審議会の意見ということで、前回意見を出  
していただきありがとうございます。今月 10 月 2 日に洞爺地区で行われた地域づくり  
の懇談会で、様々なご意見が出された部分もあるんですけども、その中で地区に新し  
く学校を作ることを考えておられるか、というような質問があったんですけども、そ  
の中で町長から、新しい校舎は 20 億から 30 億円ほど必要であることから、公共施設  
の管理の中で次の世代に負担をかけてしまうため厳しいというところで、既存の施設  
の中で工夫していつてもらいたいというようなご発言があったと伺っております。た  
だ、審議会においては今日を含めて 7 回会議を実施しておりまして、多角的なご意見  
を元に進めておりますので、事務局といたしましても審議会における皆様のご意見を  
大切にしながら、町長部局とも連携を図りながら、財政的な制約はあるかもしれま  
せんけども、最善の解決策を検討してまいりたいというふうに思っておりますので、今  
後の協議において、各学校について皆様のご意見を反映しながら、町の教育のあり方  
について引き続き協議を進めていきたいというふうに思っておりますので、ご協力の  
ほどよろしくお願いします。

これまでの教育行政審議会の意見ということで、教育施設、予算、小中一貫教育に向けてというところでまとめております。今小中一貫教育、義務教育学校というようなところもありますので、そういった部分を含めてどうして行くかと、校舎の部分も含めてというところでご意見をいただけたらと思います。

各学校ごとにとということで、前回の会議の部分で出されたところをまとめさせていただきました。一番下の温泉小の活用の部分、そしてさらに 10 年、20 年見据えたときに、やはり人口減の部分でどうするかというところ。集約も必要なのではないかというところ。10 年後を見据えて計画を立てていくことが必要なのではないかというようなご意見も出されております。

これらを受けて、委員さんの方から追加というか、こういった部分は必要なのではないかというようなところでご意見をいただけたらなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いします。

#### ○鈴木会長

今事務局の方から資料に基づいて説明がありました。

平成 25 年から適正配置についていろいろ話をされてきているという形。それから、長寿命化の関係で平成 31 年にはそういう状況だという話もされているということ。踏まえまして、これまで 6 回この審議会の中でもいろいろと話をきて、どういう学びを子どもたちに残していくのか。これからどういう方向性がよりベストなのか。そのあたりも含めて各委員さんの方からもお話しいただきました。結構これまで洞爺地区であるとか、本町であるとか、いろいろ話も各委員さんから出されていまして、これ以上の物っていうことはどうなのかっていうのも一つあるんですけども、今方向性をここがっちりと決めるわけじゃなくて、さらにもう少し、ちょっと言い伝えておく必要がある要素があれば、ぜひこの場でお話しいただければというふうに思います。

まずは各委員さんの方から、今の事務局の説明を聞いて何かあればお話しいただければと思うんですけどもいかがでしょうか。

#### ○委員

これまでの教育行政審議会の意見より、という 6 番の部分で。

洞爺地区において小中一貫教育の流れがあるが、現状ではというところがかかれているんですけども。小中一貫教育の小学校と中学校の教員の方々の交流も進められていて、両校の校長先生方も相互に協力体制がすごく深まっているというような話を私は聞いているので、まずは洞爺地区に関しては、小中一貫教育の流れっていうのは早急に教育委員会ですとか、町が後押しするっていう形がいいのかなっていうふうに思います。

地域の理解も、すごく親御さんたちが教育熱心なので、洞爺地区に関してはそういう小中一貫の流れってというのは進めていくべきかなと思います。

地区別で、やはり先生方の交流ですとか、先生方の小中一貫に対する考え方とかもいろいろすり合わせる必要があると思うんですけど、地区によって違いがあるので、段階的に進める地区があったり、早急にその流れを進めていく地区があってもいいのかなと、そういうようにちょっと感じます。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

今洞爺地区といいますか、洞爺の子どもたち、要するにその小学校一年生から中学校3年生までの学びの連続。小中一貫をより進めていけるような体制づくりというか、今は先生方同士でいろんな関わりで子どもの学びを何とかしていこうという、盛り上がっているような話も出ていますので、そういうようなことが一つ。これ前回、確か虻田小中をモデル的にとということで、令和8年からでしたっけ。

#### ○細江教育推進課長

令和8年度に虻田中学校が虻田小学校に校舎の部分だけ移転するということです。

#### ○鈴木会長

そういう体制があるので、それも一つのモデルとして、それをまた還元していきながら、今後どうするかという話も前回ありました。それも一つ、段階的にっていう話で進めればなというあたりがあるんですけども。

その他どうでしょうか。他の委員の方から、今の話を聞いてもいいですし、今の虻田地区と洞爺地区と、あと温泉地区っていうのもありますので、ぜひ温泉地区の方からも、こんな方向性、なんていう話しも出していただければ、それぞれのエリアでこれから洞爺湖町全体としてどうするのかって話になるかと思いますので、それも合わせていかがかなというふうに思いますけどもどうでしょうか。

この三つの視点は非常に重たいといいますか、なかなかの部分ですけども、まずはこの場でいろいろと委員さんの声を届けないといけないかなと思いますので、ぜひ遠慮なく忌憚のないご意見をいただければと思います。

#### ○委員

温泉地区なんですけど、いただいた資料の中では平成26年度、結構もう前の話ですよ。当面現状を図ることとし、っていうことで現在の洞爺湖温泉地区は22人でしたか。すごく少なくて、地域の中でも洞爺湖温泉も他に行っていいんじゃないのっていう声もありながら、実際にPTAや学校へ通っている親御さんたちはどういう気持ちな

んでしょうね。

どちらにせよ、中学校では虻田に行くことになるので、それだったら早いうちから虻田に統合してもいいんじゃないの、っていう考えもあるんで。ただ、せっかく新しい校舎を洞爺湖の月浦に作っていただいて、それをあっさり捨ててしまっているのかっていう、後ろ髪を引かれるような、地域の要望で月裏に学校を作ってほしいって言った手前もありますのでね。それをひっくり返して虻田に行ってしまう、なんて簡単に恥ずかしく言えないっていう当事者でもあるものですから、その辺、町としてはどうなのでしょう。方向性として、洞爺湖温泉をなくして、虻田にっていう議論はどのぐらい進んでるのでしょうか。

#### ○鈴木会長

今二つですね、まずは温泉地区の保護者の方々といいますか、PTAの方々のそういう要望といいますか、その辺りはどうなのかっていうのが一つと、いわゆるその施設、まだ耐用年数が新しいということで、そのあたりがどうなのかっていう、その二つ。委員の方からも問いとしてありましたけども、まず保護者の方ということで何かそういう声とかっていうのはどうなのでしょう。

#### ○細江教育推進課長

保護者の意見という部分では、今までに何度か教育講演会をさせていただいて、その中でアンケート調査をさせていただいております。けれど、その中に温泉小学校の保護者の講演会の出席率がさほどいいわけではないので、そこから保護者の意見を全て収集できているというわけではないのが現状です。

先日虻田中学校が虻田小学校に移転をすることを進めているときにも、温泉小学校の保護者に関してもアンケート調査を行っているんですけども、やはりそこからの回答もなかなか現実を見ていないのか、きっちりとした回答が出てきている件数としては非常に少ないです。ご回答いただいている保護者は、また小学校と中学校が一緒になるのであれば、ゆくゆくはそっちにというような意見も出ていたことは何件かありました。

今の校舎の利用という部分では、実際に温泉小学校が虻田小学校にという形になった場合は、今度はまた町全体で跡地利用を考えていかなければいけない部分なのかなというふうには思っております。ただ、実際にそこが虻田小中、温泉小学校を一つにしたときには、実際に温泉小学校の器の中には入る人数ではなくなってしまうので、校舎を利用するとすると虻田小学校の校舎利用になってくるのかなというふうに考えているところです。

以上でございます。

#### ○委員

意見が出てないなら温泉小学校を虻田にもう移転しちゃえば、というのは無責任な話なんですけど、当時、温泉中学校が虻田に行ったらというのは、私の娘がちょうど温泉小学校から中学校に上がるか上がらないか、そういうとき。

今の温泉中学校に行くんだったらって言って脱出組になっちゃったんですね。結局明日か札幌の学校へ行くかとなっていて、札幌に行っちゃいましたけれども。ただその当時、その何年か前に虻田に合併したからといって、残るかどうかってのはまた別な問題なんですけど、あまりにも人数が少なすぎて、積極的に早く合併しちゃえよっていう親がいたもんですから、そういうのがあったんですけど、意見が出てこないっていうのが一番難しいね。

#### ○細江教育推進課長

そうですね、そこは講演会に来てくださってる父兄の方が実際には少ないかなっていうところなんです。その出席者からのアンケートっていうふうになってしまうので、その地域で見ると、やはり温泉の方というのがちょっと少ない状況にはあります。全くないわけではないんですけども、やはり講演会に聞きに来ていただいている父兄が少ないというふうには感じるところです。

#### ○委員

確かに講演会に温泉地区の人はいなくて、僕とあと1人みたいな感じでした。主体的な親ってのは参加するのでしょうか。

令和13年になると、もう虻田小の人数も3分の2になるということで、今後例えば温泉小は建物としてはやっぱり一番新しい。位置的には早めに統合となると虻田小じゃなくちゃいけないと思うんですけども、規模的に。それが全体数としてやっぱりもう明らかなこの少子化の流れだと、減ってきたときに、やっぱり最終的には温泉小の方が使えるみたいなことってありえたりするんですかね、どうなんでしょうか。

#### ○山本教育指導参与

やはり、人口が減ってきて子どもの数が減ってきた場合には、どこかのタイミングで集約が必要になってくるのかなとは思いますが、今ここでどこっていうのは決めることはできないと思うので、やはり何年か後に見直しをかける部分と、皆様のご意見を聞きながら、どこがいいのかというようなところも含めて考えていければと思っています。

#### ○委員

私も洞爺湖温泉なので、2000年の噴火のとき、上の娘が中学1年、下の子が小学校

5年生になるときに噴火に見舞われて、委員の奥さんと同じように洞爺湖温泉地区のPTAということで、当時いろいろあったんですけど。

温泉小学校を本来は温泉中学校を改築して温泉小学校にしましょう、というお話が当時あったんです。でも私達は月浦に新しく小学校を建ててほしいということで、ちょっと父母会ってというかPTAでそういう動きがあって今に至るっていう感じなんですよね。確か温泉小学校は、私の記憶では一応避難所として活用できるように、それも兼ねた施設ってということで小学校を建てていただいて、そのときもやっぱり人数が減っていくっていう話も出てまして。将来的には避難所的活用ができるような作りを踏まえての小学校という動きだった記憶があります。安心して温泉に住んでいられるという。

そういう建物の年数だけを見ますと、温泉小学校が一番新しいですよ。とうや小さんは結構年数経っていますよね。現在スクールバスの時間帯ってというのはやっぱり45分程度、洞爺地区の方はかかって学校に来られている形ですよ。

#### ○細江教育推進課長

洞爺地区内で、かかる方はやはり高台から来ている方もいますので、45分まではかからないにしても、近いぐらいの時間帯はかかっております。

#### ○委員

個人的意見なんですけど。単純に温泉小学校は、当時まだ1クラスで6クラス作れた。あと特別学級も使えるような、確かそういう教室になってたような気がするんですよ。逆にとうや小学校さんがスクールバスで温泉小学校と一緒にあって、その時点で中学校になったときに、将来的には本町に統合されるのか、その辺はまた今後の検討だと思うんですけど、小学校を一つに集約する分には温泉小学校の施設自体は使えるんじゃないのかなっていう気はするんですよ。

ただ、そのスクールバスの運行がどう行くか行かないかって。温泉小学校もやっぱり温泉町から月浦にスクールバス出してますから、そういうところで多方面のスクールバスになったときに、どうなのかなっていうところもちょっとあるんですけど。

ただ単に建物だけのことを考えれば、とうや小学校さんと温泉小学校さんが、月浦地区で一緒に勉強する分には、生徒数も増えて、複式も解消され、ちょっとした集団生活の部分でも、いい環境にならないのかなとは思います。

ただ、子育てが終わった世代なので、現在子育てをされているご父兄の方たちのやっぱりね、地域的な考えもございますから、そういうところでは、またいろいろ話を進めていった方がいいのかなっていう気もしますが。一応個人的なところではそういう気持ちはございます。



## ○委員

私も今は虻田に住んでますけど、洞爺湖温泉で子育てしたものなんです。

私の子どもも洞爺湖温泉小中学校を出ています。そのときに先ほどの委員の意見と重複しますが、私達が月浦に小学校を建ててほしいという意見を言ったときに、実はやっぱり噴火っていうものが起きたとき、私なんかは噴火口のすぐ下に住んでたものですから、やっぱり子どもがその時間に学校に行ってたとき、子どもがどこにいるか、子どもをどういうふうに迎えに行くかっていうことですごく不安だったんです。一つのところに、例えば子どもが学校だったら学校に集まっていれば、そこに親が迎えに行けばいいことなので、子どもは危険度が少なくなるっていうことで、月浦に学校があったらいいんじゃないかなっていうふうに私はそのときは思って、そういう意見に賛成してたんで、それを今思い出しました。

ただ、本当に噴火っていうものがいつ起こるかっていうのは予測はできるって言ってますけど、どんな状況になるかって本当にわからないことなので、やっぱり子どもを安全なところに置きたいなっていう気持ちは、もう子育ては終わりましたが、今も思っています。

## ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

とても大事なお話でした。やっぱりこの洞爺湖町の抱えている自然環境というか、有珠山噴火っていうのは、一つの特色でもありこれからずっとここで子どもたちが育つという中では、やっぱり考えていかなきゃいけない一つの要素で。子どもの安全・安心を考えれば、どうだろうかっていう視点も、これからの子どもの学校、これからの通学といいますか、その辺りも大事でしょうし。今スクールバスの話もありましたから、登校する時間が結構かかったりなんかすることによっての子どもの学びの保障はどうなのかっていうあたりも、非常にやっぱり考えていかなきゃいけない要素でもあるのかなと。

単純にここに移りましょうというよりは、これまでの皆さん方のワークショップの中でも、子どもの学びをどうするかっていうことでご議論いただきましたので、そのあたりをちょっと絡めて、ちょっと項目として入れておかなきゃいけない要素なのかもしれないですね。

はいどうもありがとうございます。

今その洞爺湖温泉地区の皆さん方ということでお話ありましたが、それを受けて、何か感じるものがあれば、他の委員からも何かお答えいただければと思うんですけどいかがですか。

学校サイドといいますか、保護者のこと、子どものこと、そういうようなこと全体を見てですね、どういうふうになを受け止められてるのか、ちょっとお話いただければ

と思うんですけども。

#### ○委員

本当に皆さん忙しい中やってきていただいて、学校のことを考えていただいているということに非常に感謝申し上げます。

その中で今委員長さんからもありましたとおり、私はとうや小学校と洞爺中学校で、これから小中一貫教育を進めていきたいと、町から別に認可も何もされてはいませんが、そういう方向で子どもたちを9年間で育てていくっていう視点で考えているので、今のご意見とはちょっと違うのかなっていうふうに聞いていました。

建物の使い方としては理にかなっているなという部分と、それから子どもたちをどうやって9年間で育てていくかっていう視点になると、そこがちょっとぶつかり合うところなのかなっていうふうに聞いております。

ただ、私は校長会の代表として来ていますので、町内の各校長先生方もこれからの求められている教育っていうところの視点を、皆さんにもちょっと考えていただきたいなというお願いもございます。

#### ○鈴木会長

いろんな方向性からこれからの子どものことを考えていきたいという学校サイドのお話が今ありましたけども、他の委員の方からいかがですか。

#### ○委員

洞爺湖温泉小学校の活用方法って、別に学校として活用しなくてもいいかなというものもあるので、私もどちらかといったら通学で洞爺からわざわざっていうのは、なんかやっぱり距離的に厳しいものがあるし、せっかく洞爺でいろんな教育熱心な方もいらっしゃるんであれば、やっぱり洞爺で小中一貫っていう部分。

ただ、洞爺湖温泉小学校の建物の有効活用は学校じゃなくてっていうのは、ネイパル洞爺があっちにあったように、あれがなくなっちゃって、そういう意味では大会の施設として活用する方法ができないのかなと。

せっかくサッカー場とか野球場がある中でいけば、その宿泊施設みたいな形で。我々にとったらライバルになっちゃうんですが、宿泊施設ができると、でもそれは全然気にしていなくて。現にこの地域はサッカー場ということでは春先いっぱい合宿来ていただいて、旅館にはもう部屋がなくて来られない。泊まれないという要望もいっぱいある中でいけば、小学校というのは非常に宿泊部分でいけば、そういう活用ができるのかなって。宿泊ということができれば、いざ有珠山噴火したときに宿泊もできるっていう部分で避難所としても使えるし、そういう計画を立てれ

ば、何か国も認めてくれるのかなという気もしますので、その辺もちょっと有効活用ということでのアイデアでございますのでよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

ありがとうございます。

今施設の利活用といいますか、その辺りもひっくるめてお話が出てきましたけどもどうでしょうか。

その他にもあと二つありますので、時間的なことも気にしながらというところで。ただ、今虻田小中っていうのを一つ取り組みながらのモデル的なものと、洞爺地区の小中で校長先生もお話されたように、小中一貫教育をこれからモデル的にという形。それに、温泉小学校の子どもたちの状況をどうするのかっていう辺りが、ある程度各委員の方のお話から出てきたところで、一つ二つの方向性が審議会として出てくる内容があったかなと思うんですけど。

○委員

温泉小の実際の親御さんたちの声が出てこないっていうのが、おそらく建物が綺麗なので、本当にその危機感がないというか、その感じはあるような気は何となくするんですよ。なので、実際にこういう話になってきていて、まずはその小中一貫校の際は温泉小は虻田小の方に行くみたいな形の流れが、今後の統廃合の流れでは迫ってきてるんですよ、っていう話を PTA とか学校、保護者たちに持って行って、もう本当にここでちゃんと決断していかないと、本当に守りたいっていう思いが温泉小の親御さんたちにあるのであれば、ここで頑張るっていうのを出す。なんかそういう直球で投げて返答を確認するっていうことで、多分動くんじゃないかなと思います。

○鈴木会長

委員の方からもお話ありましたが、この審議会としてこういう方向性って言いながらも、その温泉地区の温泉小学校の、いわゆるこれからのあり方っていうのはどうでしょうかという、どっかの場面で教育委員会サイドから保護者の方にいろいろとお話を聞く場とかいうところも一つあってもいいんじゃないかと。

ただ、方向的にはこれまでのワークショップの中でも、子どもの学びをどうするのかっていうことはいろいろと出されていまして、これは審議会の意見としていろいろ答申の中に盛り込んでいただきながら進めていくっていうところで、別にこの審議会で決めるわけではないので、一つの答申として、どういう項目を入れていくのかっていうのはすごく大事ですので、そんな話をまず整理していただければなというふうに思います。

## ○委員

先ほど町長の意見として新築がちょっと難しいっていう話はあったっていうことですが、規模を抑えた形で増改築っていうところは、何かこの最後に書いてあるんですけど、子どもたちの必要な施設は早急に整備すべきだというふうなところは受けて、中学校なり小学校なりどっちかに寄せるのかと思うんですけども、やっぱり距離が離れているよりは近くというか、増築っていう形でいいと思うので、一緒に学ぶ校舎を考えるっていうところを、答申の中に入れていただけるといいなっていう。

私は新築ができないのであればっていう話なんですけども、小中一貫の流れっていうのを、本当に洞爺地区はモデル地区として、やっていくっていうところで、校舎のことも盛り込んでいただけると。あとは、どっちかに寄せるってことはどっちかが無くなるってわけじゃないですけども、跡地になるわけなんですけども、その有効活用も先ほど温泉小学校の話もありましたけども、更地にするならそれでもいいんですけども、例えば高齢者施設との融合ですとか、例えばグラウンドは分譲地にするとか、洞爺地区は人が住みたいけど住む土地がないんですね。農地法とかの関係もあるんですけども、そういうところでやはりそういう活用方法を考えつつ、一貫の教育っていう、学びの場所は何ていうか、施設改善の予算化っていうところだとは思いますが、なんか答申に入れるものなのかどうかかわかんないですが、審議会の意見として何か入れていただければ本当に嬉しいなというふうには思います。

## ○鈴木会長

学びの環境づくりっていうか、それが今の委員のお話のように、この地域づくりにも繋がっていくような、そういうところもこの審議会としていろいろ議論したっていうことも答申の中に1項目入れつつ、子どもの安全・安心をどうするかっていうところが一つ大事なので、そのあたりもあわせてということで、今委員の話を聞きながら思ったところです。

ぜひ、そのあたりも事務局サイドの方で答申の方に、書いてますもんね、必要な施設を早急に整備する必要があるって、もう入れちゃってますので、そのあたりを含めながら。ただ、予算は厳しいっていうことは各委員はもう十分に承知している部分だと思いますので、そのことも絡めながら、よろしく願いしたいなというふうに思います。

よろしいですか。

《なしの声》

それでは、二つ目の方に進めてまいりたいと思います。

次は議事の(2)の方ですね、学校給食センターに関わってということで資料があ

りますので、これを元にまずは事務局の方からの説明を聞きたいと思います。

○細江教育推進課長

それでは資料②をお開きください。

学校給食センターに係る説明につきまして、私の方からご説明させていただきます。

1の学校給食センターのこれまでの経緯というところで、平成18年の旧虻田町と旧洞爺村の合併協議の際に行われた内容といたしましては、給食センター施設については現状のまま慎重に引き継ぎ、当面は2ヶ所での運営とするが、施設の老朽化や経費の削減、節減のため、1ヶ所に統合して運営していくことが望ましい、という形で慎重に引き継がれた状況にあります。

合併後、平成20年に一度協議が行われたのですが、結果としては現状維持で進めてきております。再び令和3年度に災害時や経済的な視点などから、町民による検討委員会で協議をされ、下の表の（ア）から（ウ）の3案ですね。（ア）が新築案、（イ）が虻田給食センターの改修案、（ウ）が洞爺給食センターの改修案と三つの案の中から検討した結果、洞爺給食センターを増改築することで、町教委の方に提言をいただいていたところでございます。

翌令和4年度に、洞爺湖町の学校給食センターの給食検討懇談会というものを立ち上げまして、その中では、給食内容等のソフト面について検討いただき、それが下の③の令和4年度に書かれている内容の話し合いが行われた結果となっております。④の令和5年度の当初には、洞爺給食センターの増改築に係る基本設計を実施した結果、当初の想定から、当初の想定というのが洞爺給食センターの改修案として、2億円程度の費用で回収ができるんじゃないかという想定でした。その想定が大きくかけ離れたということで、実際の増築面積も40平米から50平米増で賄えるんじゃないかと言っていたものが、増改築の面積としては430平米ほど必要じゃないかというところと、改修費用については2億円程度という概算だったものが、実際に基本設計をかけたところ、13億円の大きな額の差が出てきているところでございました。実施時期を含めて、庁内で優先順位等の再度協議を行いまして、学校給食センターの統合事業時期を見送るというような結果となっております。統合する時期等につきましては、現在の給食センターが双方ともまだ使える状況でありますので、小中学校の老朽化や、教育委員会で抱えている他の公共施設等を含めた全体の中で、教育行政審議会に諮りながら方向性を定めていきたいというところで、現在そういう経過となっております。これまでが今までの合併時から今年度においてまでの経過となっております。

2の洞爺湖町の給食センターの概要といたしまして、虻田給食センターと洞爺給食センターの内容を記載してございます。構造から経過年数までは省略させていただきます。

ます。調理の能力としては、虻田給食センターで 800 食。洞爺給食センターで 300 食、最大作れる能力がございます。調理の方法としてはどちらの給食センターも直営でやってございます。米飯につきましては虻田給食センターは委託で作っておりますが、洞爺給食センターは財田米を自炊で炊いております。調理の食数としては、令和 6 年度の平均した 1 日の食数として虻田地区が 359 食、洞爺地区が 120 食。配送の部分につきましては、虻田地区は委託での配送となっておりまして、洞爺地区は直営で配送しております。給食を提供している学校数といたしましては、虻田給食センターが虻田小学校と洞爺湖温泉小学校の 2 校と虻田中学校 1 校で、虻田高校に一部希望者のみということですが給食の配送をしてございます。

洞爺の給食センターにおきましては、とうや小学校と洞爺中学校の小中 1 校ずつとなっております。職員数につきましては、町の職員数と調理員の職員数は記載の通りとなっております。

令和 5 年度の決算時の経費の状況ですが、虻田給食センターで調理員とか職員数の人件費の合計として約 19,000 千円程度、その他需用費、光熱費ですね、燃料費ですとか水道代とか、あとは配送の部分の委託経費等々を含めまして、約 21,000 千円で運営経費全体で 40,000 千円程度の経費がかかってございます。洞爺給食センターにおきましては、人件費におきましては 8,000 千円程度で、需用費、役務費ですね燃料費等に関しましては 15,000 千円の経費がかかっておりまして、全体の運営経費といたしましては、23,000 千円程度かかっている状況にあります。この他に材料費、賄い材料費というのは、給食費で賄っておりますので、その経費についてはこの中には含まれていないところでございます。これまでが町の現状でございます。

次に 3 番目の北海道内の設置または業務委託の状況について、いくつか載せてございます。近隣でいきますと共同設置という部分では、室蘭市・登別市が令和 11 年度の供用開始を目途に、共同の調理場を広域で設置運用することで進めているようです。続きまして、委託業務の壮瞥町ですけれども、壮瞥町は伊達の給食センターに委託をしておりまして、実際には委託料として配送料も含めてですけれども 17,000 千円程度。これは何か児童生徒割で計算をされておりますので、その年度によって、子どもの数によって若干の変動はあるようでございます。あと、他は雨竜町で新十津川町に委託していたりとか、やはり地域によっては近隣に委託をしている市町村もあるように見受けられます。

今後考えられる主な例といたしまして、次の六つの案を載せてございます。①から③につきましては、先ほど今までの経過の中でというところで、検討委員会の中で出されている案を三つ載せております。というのは新築案として、虻田・洞爺それぞれを廃止して新築する案が一つ。②案としましては、虻田給食センターを改修するという案。③の案としましては、洞爺の給食センターを改修するという案です。

ね。②と③につきましては、これは共同調理場で虻田地区と洞爺地区とを一緒に給食センターで調理をするというような案でございます。④番目の案としましては、近隣との共同設置ということですので、実際のところ、あくまでも案なんですけども、豊浦町と一つの給食センターをどこかに新設するか、どちらかの給食センターを改修しての共同設置という案です。⑤番目の近隣市町村への委託というのは、壮瞥町は伊達市に委託をしているような形で、うちの町も伊達市の給食センターに委託をお願いするというような案が⑤番目の案となっております。あと⑥番目といたしまして、民間委託というのは建物と中の機材だけを丸ごとお貸ししまして、どっかの民間に丸ごと委託するという民間への委託案というような、六つの案というような形で提案ではないですけども、こういうようないろんな形が考えられるかなというものを載せてございます。町の財政状況もかなりきつい状況というのもありまして、そこも考えつつ、どのような形が望ましいのか皆様のご意見をいただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

#### ○鈴木会長

給食センターの施設をどうするかということでのお話で出ていますが、先ほどの学校の施設再利活用ということも先ほど委員の方からも出ましたけども、この給食センターのこれからの施設のあり方ということですけども、4番の①から⑥ですね、こういうような形で提案というふうな話も出ています。

提案が①から⑥まで出ていますけど、これも含めて各委員、何かご意見とかあればお話しいただきたいと思うんですけども。

#### ○上林副会長

確認ですけど、虻田の給食センターは、前にいただいた資料だと、経過年数が40年で耐用年数が41年だから、もう改修しなきゃいけない状況にはあるということなんですよね。

#### ○細江教育推進課長

耐用年数的なことを考えるとやはり改修しなければいけない時期というか、やはり建物自体はかなり古い状況になってます。

#### ○上林副会長

あとどれくらい使えるかわからないですよね。

#### ○細江教育推進課長

何とも言えないんですけど、やはり位置的にはどちらかというと有珠山の麓にある

というか、場所としてはそうですね。

○委員

虻田と洞爺の給食センターの合併についての話し合いが始まったときに、洞爺地区でも集会があって、話し合いが持たれたような状況で話がストップしている中で、例えばここで意見が出たからそこから話が進みますというか、どうやったら話が進み出す条件が揃ってくるのかというのをちょっと伺いたいです。

○細江教育推進課長

実際に洞爺地区で検討委員会と説明会をさせていただきまして、実際には方向性として、令和3年度の段階で洞爺の給食センターを改修して、というところでハードの面についてはある程度方向性が固まった形で進めてきていたのが現状だと思います。なんですけれども、令和5年のときに実際に改修するにあたっての実施設計を行ったところ、かなりの費用がかかるということで、町としてはかなり厳しい状況で、改修に至るまでには検討が必要じゃないかというところで、検討をいただいた委員の皆さんをはじめ、地域において今の時点ではこの状態で保留というか、一応この状態をストップさせてほしいということでお話をさせていただいているかと思います。その上で、教育行政審議会の立ち上げがありまして、この会が進んでいくときでしたので、この会議においても、やはりその部分について再度検討して、この会議というのは町の教育委員会で持っている施設全体の部分を検討していただくということがありましたので、その会議の中でいろんな施設も含めた中で、給食センターについても、今後のあり方について、再度検討していただきたいなということで、この会議にかけさせていただいているというのが現状です。

○委員

この会議の中で洞爺の方の改築を進めていく希望を出しておくということですか。

○細江教育推進課長

答えは一つじゃなくていいと思うんです。ここでいただく意見というか、皆さんに検討していただく内容としては、いくつか出していただいても構わないと。絶対これにしなきゃいけないということじゃなく、いくつかの意見をいただいて、その中からやはりうちの方でも検討に入らしていただきたいというところですので、答えを一つにしてくださいということではないです。一つにしてくださいということじゃない中に、いろいろな検討材料がありますよというところなんですよね。

実際に洞爺の方の給食センターを増改築して、という部分の中で、当初令和3年



度にその部分が決まったときには、食材の納品に関しても地元業者からの納品が可能だったものですから、配達自体はもう本当に毎日の配達が可能だったんです。ですけども、実際に洞爺の給食センターの食品の配送というのが、もう毎日の配送が可能じゃない状態にありまして、やはりある程度保管する、週に1・2回の配送になってきていますので、保管する冷蔵庫も必要になってきてます。そうなったときに、やはり虻田の分も含めてとなると、500食まではいかないんですけれども、それを切るぐらいの児童生徒数プラス先生方の食数も出てきますので、それだけの食材を確保するスペースもかなり必要になってきています。令和3年度から5年度までの変化としては、そういう状況があったりとか、500食を作るとなったときに、今の食数ですと下水道に関しては下水道の終末処理場に繋がって、下水処理をしてるんですけれども、やはり設計した段階でそれだけの食数となったときに、かなり大きな規模の浄化槽の設置も必要ではないかというような案が出てきまして、いろいろそこを増改築するにあたっての懸案事項が多数出てきたっていうのが現状です。

#### ○委員

現在③ですね、令和4年度のときのその500食利用できる必要最小限度の見積もりを出したことによって、約13億円っていうことが出たっていうお話なんですよ。これは500食で回収するっていう。今の時点で両方ギリギリ、多分この先学校の統廃合っていうんですか、小中一貫になるのか、地域の学校がどういうふうになるのかでそれぞれの食数も変わってくると思うんですよ。それと同時進行で動かないと、片一方しましたけど学校はこうなりましたでは、なんかちょっとバランスが悪いんじゃないかなっていう個人的な感覚なんです。それで逆に今の時点で、最低ギリギリの改修、それぞれがその学校の動きに合わせたときに、そこに行くまでのギリギリの最低ラインで持っていけないのかなっていう。なんていうか現状維持ではないですけどもね、どうしても改修しなきゃいけない部分とゴールを一緒にするような動きは厳しいんじゃないでしょうか。

#### ○細江教育推進課長

先ほど委員よりお話いただいたのは、温泉小学校と洞爺地区が一緒になった場合とかっていう考えですか。

#### ○委員

そういうのもあるし洞爺地区さんは洞爺地区の小中一貫とか、本町で小中一貫とかってなったときの給食センターとか。

#### ○細江教育推進課長

洞爺は洞爺で小中一貫、虻田地区に温泉地区が加わった小中一貫という部分では、今の給食センターの運営自体はその状態で虻田も洞爺も運営してますので、食数自体には小中一貫になっても変更はない状態にはなります。

#### ○委員

一つにしようとした理由は、建物自体の耐久性とかですか。

それとも結局耐震とかそういう感じなんですか。

#### ○細江教育推進課長

一つにしようとした理由というのは、そもそも合併協議から始まった時点で同じ町の中に二つの給食センターが本当に必要かというところからの協議だとは思うんですね。

その中でやっぱり合併の際には、なかなか一つにすることができなくて、慎重に引き継ぎますよという形で引き継がれました。再度その後、合併後、平成20年にもそれは内部だけの協議なんですけれども、内部で協議をされた様子が伺われます。その中でも、やはりなかなか一つにするのはまだ難しいだろうというところで、実際に令和3年度に、もうそろそろ協議をしていかなければいけないんじゃないかというのは、やはりあの施設というよりも虻田給食センターの施設がかなり古い状況にあります。

その状況も踏まえるのと、あとは先ほどもお話ししましたけども、有珠山の麓にあるというところで、場所の問題とかもあると思われるんですけども、そういう部分の中で、再度令和3年のときに今後どうしていったらいいかというような協議が行われて、その時点では両方を維持するというよりも、どうにかしてどちらか一つというか、何らかの形で一つにしましょうか、というような案の中で進められたと思うんです。

それが1ヶ所どこかに新築案、虻田に寄せる案、洞爺に寄せる案という3パターンでいうところで、実際に洞爺の施設が新しいというのもありまして、学校もそうですけども、新築というのがなかなか難しいんじゃないかというところで、洞爺に寄せましょうという形になったんですけども、実際に洞爺に寄せた段階で虻田の分も持ってきて給食を作るにあたっての希望が、当初令和3年度に概算で見積もりを立てたときには2億円程度でできるんじゃないかというような案で進んでいったんですけども、実際にそれが本格的に設計を出して、基本設計が上がってきた段階では、2億では全然用が足りないよというような状況になりまして。その結果13億円程度というような概算が出たというところなんです。

金額だけではなくて、広げようとした幅も理由としては先ほど令和3年度から5年度にかけていろいろな状況の変化があったよ、という部分はもちろんなんですけ

れども、やはりそれだけの食数を作るとなったときの規模の見通しが、令和3年度のときの見通しが甘かったのかなというところで、最終的に基本設計が出た金額で実際に回収をするとなると、厳しい部分だねというところで見送られたというような形で、その中で再度この委員会が立ち上がったので、この委員会の中で方向性の検討を立ててほしいというような形での諮問を町教委の方からありました。

#### ○委員

まずお金がないということですよ。

いろいろ情勢も変わってきてますし、物も値上がりしてきてるっていう状況ですから厳しいのはすぐわかるのですが、何か子どもたちの食育の面に関してなので、これすごい大事な部分かなっていう気がするんですよ。私今回初めてこれを見てご飯が本町は委託だったんですね。洞爺は自炊だったんですね。そういうふうになったんだって、今ちょっと考えてるところだったんですけど。

難しいですね。多分子どもの数も減ってきてるから食数も今後多分減っていくんだらうっていうのはありますけれども。でも、そこに伴って今やいろんな HACCP の関係なんかも出てきて、やっぱり分けて作らなきゃいけないとかってなると食数が少なくなっても施設自体はそれに対応したいろんな部分を備えなきゃいけない、ていうところで厳しいのかなって感じました。

#### ○細江教育推進課長

そうですね、施設のハード面の外壁もそうですけれども、中で使ってる機材も一つ一つがかなりいい値段しますので、そこをリースなのか買取になるのかというような契約では進めてはいますけれども、かなりの経費がかかっているというのは現状なんです。

#### ○委員

極端な意見をちょっと出していいかなと思うんだけど。数が減ってきて、その給食を維持するためにいろんな知恵を絞らないと作れないということだけでも、だったら給食止めたらどうだと。そういう議論にはならないのかい。僕らは給食を食べない世代だったから、給食を食べてる子どもたちのことが、結構いろいろ食べれるからね、羨ましく思えたんだけど、今ここに来て親も給食にかなり子どもの栄養を依存してんだよね。だから任せっぱなしで。こういうときに施設新しくしなきゃ親も協力してくれるのかと、そういう話もできないのかね。だから僕だったら、あんまり大変だったら一旦給食をやめるっていう手はないのかな。

僕らが子どもを育てたのははるか昔だから、今のその現状にいろんな意見聞いてもなかなかよくピンとこないんだよね。ちょっと極端な意見を出してます。

#### ○委員

横浜なんかはもう昼食が弁当になってるんですよね、確か完全に。というところと、先行的に全体的にお弁当になったところは、お弁当になったけどやっぱりすごく冷たくてっていうので、給食に戻した自治体も確かありましたよね。

それで④⑤⑥の案が出てきてるっていうのは、本当に抜本的にかなり持続可能な形っていうことを考えたときに、町づくりのビジョンの方の会議にも出てるんですけど、この洞爺湖町って要するに町の建物からすごい赤字が出ている建物がめちゃくちゃ多い。道内でも何かベスト5に入るような感じの、収支の中の支出でちゃんと活用できてないけれども、すごく赤字を垂れ流してる建物が多いという自治体っていう話がある中で、平成18年の話からずっと話が来てる中で、この④⑤⑥ぐらいの話も出てくるようなことも考えたっていう思いもあるんだろうなと思いました。

先ほどのお話の中で、委員のお話もありましたけども、要するに話し合ってきてる経過がある中なので、本当に13億円でしたっていう話からの、13億円でしたからどうしようかっていう話し合いですよ。それがまたそこでやりながら、でも絶対何とかしてでもっていうふうにはなかなか難しい、きっと収支の現状があるんだろうと思うので、その中でそこにいる住民の方々がいいなと思う形になっていかないと、多分本当進まないんだろうなと思うので、もう一度この13億でした、を持っていくっていうか、持っていった中での話を進めていくっていうのはどうなのかなとちょっと思いました。

#### ○委員

先ほどの委員から出た意見にちょっとあれなんですけど。給食制度ってのは基本的にまず考え直さなきゃいけない。というのは、給食制度ってのは戦後の食の貧困っていうことが基本で始まっているはずなんです。だから今の食の貧困というのは、一部分、もしかしたらまだあるのかもわからないですけども、それが検討材料にならないのかなという部分が一つあるんです。今、横浜の方は弁当にも切り替えられてるとかっていう意見もあるんで、その辺の考え方も一つは考えていかなきゃいけない。

それとあと2点あるんですけど、私この最初の概算で出した2億円という数字と13億円ってすごいかい離があるじゃないですか。その辺の根本原因はどこなのかなっていうのをちょっと精査してるのかどうかっていうことと、令和5年に出てるんで、その後、圧縮するとかそういう検討はされているのかどうか。それをせっかく検討委員会でも、洞爺にするんだという意見が出てるんで、それを尊重しながら圧縮した予算とかなんかも皆さんに提示しながら検討していかなきゃいけないんじゃないかなということと、今後考えられるということで、④と⑤のところの豊浦町の

共同設置っていうのは豊浦の給食センターを使うという意味なのか、この共同設置っていうのは意味がはっきりわからない部分がある。例えば、距離的な部分で行くと、洞爺地区は豊浦、本町地区は伊達とかっていう方法も考えられるんじゃないかなという気がするんです。

#### ○細江教育推進課長

すいません一つ一つお答えします。

まず、2億円と13億円について。2億円っていうのはなんていうか超概算で出してる数字でした。ですので、もう見込みの甘さということにすぎない状況です。13億円もこれまた5年度の状況なんで見直しをしているのか、という話ですけども、これは基本設計でお金をかけて出してしまった数字ですので、また改めてこの数字を洗い出しするのかっていうところで、そこは今実際にはする予定もないですし、してもいない状況にあります。ただ、やはり今の状況にある中では、同じものになったとしても、金額が今の情勢だと上がっていくのかなというふうに想定はされるのかなと考えております。

近隣の共同設置っていう部分は、これはあくまでも例えとして豊浦町との共同設置っていう部分で出してるところであって、豊浦に何の確認もしているものでもないですし、そういう近隣との共同設置というふうに考えるとしたら、伊達はもうそこに物があって委託という形で壮瞥を請け負っているんで、伊達として考えたときには壮瞥と同じ委託という方向性が望ましいのかなというところであって、広域的な部分で北海道内でもこういうことやってますよっていう部分での共同設置ということを考えると、豊浦というところになるのかなという。あくまでもこれは本当にうちの案というかそんな考えも出てくるのかなということで全然豊浦に相談して、こういう話が出てるよというわけではないです。伊達もそうです。伊達の食数としては今うちがもし伊達に入っても賄えるだけの食数の余裕は伊達にもあるというのは、実際に伊達でも子どもの数が減ってきてますので、実際トータルした食数の部分にうちが加わっても賄えるという部分の施設の規模ではありますけれども、そこを伊達にどうするか、という話をしているわけでもないですし、そこで話が進んでいるっていうことではないです。

あくまでも、どういうことが想定されるかなというところで載せさせていただいているところです。

#### ○委員

色々考えたら、もう問題がいっぱいありすぎて大事なことがちょっと見えなくなってきたような気がするんですよ。

それはなぜかって言うと。私旧洞爺の方なんですけど、もう長い間かかって何十年も

かかって、子どもの健康とか、地域一体となって先ほど学校をどこに建てるかっていうことがあったんですが、私達の地域は、学校中心にして皆さんが農業を歩いていき、そういう繋がりがすごく強いところなんですよね。学校給食もその地産地消で、やっぱり自分たちが作った健康なお野菜を子どもたちに食べさせていくっていう、そういう信念のもとで、栄養士さんを中心にして、食育を何十年もやってるところなんですよね。

だから、やっぱりその2億と13億のね、格差はあったけど、何を中心に大切にしていってねこの洞爺湖町は子どもの教育っていうものを考えていくのかっていう柱が全く抜けてね。なんか変だなと思うんですけど、いかがでしょうか。

#### ○委員

私もその意見にすごく賛成です。合併の協議で1ヶ所にするっていうことをずっと何か背負ってきているような気がしてならないんですけども。ここに来てやはり、洞爺地区の給食センターというのは非常に特色ある給食センターのような気がするんですよ。それを旧虻田町と一緒にいくからって言って引っかき回して、結局大きくするとかっていうのは、コンパクトならコンパクトなりにそこだけで完結する食育とか、そういう給食センターをしっかりと維持して、地域の給食がこうあるべきだみたいな、そういうものにしていくっていうことはあっても十分いいんじゃないかな。

それで、この給食センターをどうするかこうするかというのは審議会にかけるだなんだっていうのも、なんかもう本来だったら町長が経営判断でやれよって言いたくなるぐらいの案件のような気もするんですよ。そういうイニシアチブをとった中で、それでこういうふうにしたいんですけど皆さんどうでしょうか、ぐらいのアイディアだなんだをやってほしいです。その上で、旧虻田町の地域はどうするかっていう部分でいったときに、伊達に委託でいいんじゃないのっていう、極端な意見。

もし経営者が、私が町長だったらそういうふうに関与します。ていうところでございますので、以上ちょっと極端な意見を言っていました。

ただ、洞爺地区の給食センター、本当に別に合併しなきゃいけないから、そういういろんな13億だなんだとなってますけど、それをとっぱらって本当にこれ今どうしたらいいのっていう、そこから考えたら、ひょっとしたら今委員がおっしゃられた、やっぱそこを守ってコンパクトですごくいい取り組みをやってるから、そこをその学ぶという部分を、旧虻田町の子たちが学びに行くとか、それぐらいだったらお願いできるんじゃないかなって。全部作ってというのは非常に横柄な態度のような気がするんですよ。以上でございます。よろしくお願いします。

○鈴木会長

ありがとうございます。もう一つちょっと案件があるのであれなんですけど、時間ばかり気にして申し訳ございません。

平成 18 年に 1 ヶ所に統合するというのが基本ベースになって今進んでいて、結局予算が大変かかるからってというふうな話なんですよね。そこから進んでないっていうところも委員からも出ているところなので、もうそもそもいわゆる子どもの健康、食ってどうなんだってということが前回までのワークショップの中でも食育の充実というのは各委員からも出ているんですね。洞爺湖町のいわゆる海や山の物というものをどういうふうに子どもたちというあたりですので、そのあたりも含めて子どもにとっての給食ってどうなのかっていうことをもう一度考えましょうと。

そこに給食をやめる、というような話もあるので、ぜひその辺りを改めて考えていくのが一つかなってところかなと思います。ただ、今首長さん方も、給食の無償化という形で町を挙げてっていう、要するに食の工夫っていうのもあります。ただ、これは予算がかかることですからあれなんですけども、この審議会としていろんな意見が出ました。そういうあたりでいかがでしょうか皆さん。

《なしの声》

ぜひ各委員が今出された意見を事務局に受け止めていただいたということで、この後は改めてまた審議会、この場で給食センターっていう話が出てくる可能性もゼロではないかもしれませんが、とりあえずここで整理しておきたいと思います。

それでは、最後ですけども。洞爺湖町内のプールについてということで、最後の項目がありますので、まずはこれを事務局の方から説明よろしく願いいたします。

○角田社会教育課長

それでは資料 3 になります洞爺湖町のプールについてでございます。

まず一点目、現状と課題です。現在、洞爺湖町内には虻田地区と洞爺地区にプール施設がありまして、どちらも老朽化が進んでおります。特に洞爺地区の学校水泳プールにつきましては、水槽の変形や鉄骨の腐食が進行しており、コロナ休止期間も含めますと令和 2 年度より休止している状況となっております。虻田地区にある洞爺湖町プールにつきましても、ボイラーや屋根の補修などをしながら維持している状況となっております。

次に 2 番目の利用状況です。虻田地区の町プールは 10 年前と比較すると約 40%を利用者が減少してございます。1 日平均の利用者数では今年度で 33 人とやはり 10 年前と比較すると 10 人ほど減少しているという状況でございます。町プールにつきましては一般利用の他、小学校のプール授業、夏休みには学童保育が利用してございます。学校の利用状況につきましては、4 の町立学校における水泳授業のあり方に表が添付してございます。回数は 1 学年あるいは 2 学年で 3 回ずつ実施しておりまして、虻田

小学校では合計で 11 回、とうや小学校では合計で 9 回、洞爺湖温泉小学校は記載のとおり 4 回で、学校の利用は合計で 24 回となっております。

続いて裏面に移ります。今度は財政面での課題となります。近年は人件費のアップや修繕費が毎年のようにかかってきております。概ね町プールで約 5000 千円、学校水泳プールでは、令和元年度で 1700 千円ほどとなっております。

資料にはございませんけれども、年間の維持管理経費を利用者数で割り返した 1 人当たりのコストを計算しますと、町プールでは平成 27 年度では 1 人当たり約 800 円だったものが、今年度では 1,600 円と 10 年前の倍になってございます。以上のようなことから財政負担もますます増えてきているというのが実情でございます。

一方で学校水泳プールにつきましては、施設の老朽化によって水槽に亀裂やたわみが生じておりまして、これを直すとすれば、50,000 千円程度がかかると見込んでございます。学校水泳プールにつきましては、1 日当たりの利用者数はおよそ 10 人前後、1 人当たりの負担額は 2,000 円を超える年もありますので、町プールよりも負担は大きいということがわかります。ちなみに、令和 4 年度からは洞爺地区からバスを走らせて町プールを利用していただいております。

次に 6、胆振管内の状況です。近隣市町では記載のとおりとなっております。近隣に限らず、学校プールにつきましては、全国的に集約の方向となっております。例えば①共同利用であるとか、②の公営プールの活用といったことをしておりますけれども、その要因はやはり老朽化と財政の負担が挙げられております。このことはこれまでのご説明のとおり、町におきましても同様となっております。このまま維持管理を続けたとしてもいずれは限界がきてしまいますので、築年数を考えるとそう遠くない将来であろうと思っております。

そこで、7 のプールの集約化の手法として次のようなものを想定してございます。まず一つには洞爺湖町プールを当面の間活用して学校水泳プールの代替とするものです。メリットとしては学校水泳プールの経費が削減されるということ、逆にデメリットとしては、洞爺地区からの移動時間となります。令和 4 年度からバスを運行しておりますが、およそ 30 分程度かかります。令和 5 年度からは利用促進のため、子どもたちに泳ぎに慣れさせるような目的もありまして水泳教室も実施しておりますので、徐々にバスの利用者も増えてきているという状況です。

もう一つは (2) で次の段階ですけれども、町プールがいよいよ駄目になった場合、というのも想定されますので、その場合には近隣市町のプールを利用することを想定してございます。例えば伊達市であれば年間通して利用が可能であること、町内プールの経費削減などのメリットがあります。ですのでバスを出して授業などで活用する方法も考えられます。逆にデメリットとしてはやはり移動時間の問題もございます。

財政も厳しい中で、利用者も減少傾向にありますので、このような方向で考えて



いるというところでございます。以上で説明を終わります。

○鈴木会長

今プールに関しての話がありました。これについても各委員、今の説明を聞いて率直な受け止めをお話しいただければありがたいというふうに思いますけどもいかがでしょうか。

○委員

とうや小学校の横のプールは、今後使わないっていうのはもうわかるんですけど、今後どうなるんですかね。

○角田社会教育課長

解体の方向では考えてはございますが、この場でいろいろ皆さんのご意見いただいた上で、方針を決定して解体に向けてなのか再利用というか別なものに利用する可能性も無きにしも非ずかなとは思いますが、そういった多方面で、ただ解体するということではなく、土地利用も考えながら今後進めていければと思ってございます。

○鈴木会長

あといかがでしょうか。

7番のプール集約化の手法も、デメリットはやっぱりバスの移動時間が長いということで結構これはやっぱり子どもの教育活動というんですかね、それを十分に対応していくということは非常に厳しい状況ではあるのかなってすごく感じるんですけど、このあたりどうですか、校長会あたりはこの教育活動に時間が取られてしまうことのやっぱり難しさというか、大変さといいますか

○委員

移動の時間がやっぱりロスするっていうのは、教育活動がギュッギュッと集められていますので大変かなというふうに思っております。この辺り、これ私の勝手な意見ですけども、例えば温泉施設を利用するってことは難しいんですか。

○委員

プールがあるホテルはサンパレスと万世閣だけですな。

そういったところは経営者に聞いてもらわないとわからないですが、私もそれ今一瞬考えたんですよ。それは、どうなんでしょう施設の考え方によりますね。特にお風呂で日帰り入浴ということでは、元々温泉の共同浴場があったんですけども、

有珠山噴火で被害を受けて駄目になったときは建て替えるかっていう話もあったんですけど、それは建て替えのお金かかるんだったら旅館が全部協力するからそれを建てるよりは、各旅館を使ってくださいってということで、価格を共同浴場の価格で、町民入浴券ということでやったんですね。

だから、例えばうちにもプールあればいいんですけど、まさか作るような体力もありませんし、ただもう、本当にあるかもしれないですね。使うのは若い方だけじゃなくて、高齢の方もこれからプールでの健康促進とかっていう部分もありますので、噂によれば万世閣のプールも綺麗に改修したとかっていうお話もありますから、相談してみる価値はあるかとは思いますが。

#### ○委員

学習の一環でもうちょっと幅広く考えたんですけども、以前ちょっと登別でも勤務したことがあったときに、温泉の入浴体験ってのがあったんですね、小学校一年生とか登別は低学年の頃ですね。

あと、やっぱりその地域に、これやっぱり温泉ができて100何年かですよ洞爺湖町で温泉が見つかったから、この地域の宝を知るってところでは、そういった施設を利用しながら学んだり、あるいは中学生が施設を綺麗にして、お掃除も含めて体験するとか、なんか地産地消の人間バージョンじゃないですけども、なんか人材をそうやって使えないかなというふうにちょっと頭の中で今思いました。他の校長先生方何ていうかわかりませんが、私の勝手な意見です。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

そのあたりは何か教育委員会の方から民間の施設を活用するというような考えみたいのはあったんですか。このプール施設をどうするかって議論の中には。

#### ○角田社会教育課長

いや全くありません現時点では、やはり公共施設ということで考えておりました、

#### ○委員

すいません、また過去の話ですけど、私の子どもたちが小学生時代に今のお話出しました。洞爺湖万世閣の方で町が主催するちびっこ水泳教室みたいなのがあって、そこへ泳げない子どもたちが集まるみたいな形で、そこに通ったことがあったのを思い出しました。その当時は町が主催っていうか募集して、希望者だけ行かしたようなことでプールを利用してたと思うんですね。それで、記憶も曖昧なんですけ

ど、お金も掛からなかったんではないかとか思っているんで、そういうふうにご利用した過去もあるんで、それもちっと引き出してみたら何かできるかもしれません。

洞爺湖温泉小学校に何年かうちの上の子は通ったんですけど、噴火で駄目になって、1回ぐらい元小学校の中でプールに入ったと思うんですけど、やっぱり水が汚いとか冷たいとか言って、子どもはプールの授業がとても嫌いだったことを思い出します。

○角田社会教育課長

私も今のお話を聞いて思い出しました。洞爺湖温泉小学校に屋外のプールがあって、8月の夏休み期間だけ開放しておりました。

○委員

網で虫を救って入って、たしか噴火がなければ近隣町のプールを見学に行って建て替えるってお話まで出てたはずなんですよ。噴火でそれが流れて今に至るっていう感じですね、私の記憶では。

○角田社会教育課長

万世閣のプールの方なんですけども、水泳少年団で冬場の週に1回かやってた時期がありました。町が直接関わってたかどうかっていうのはちょっと記憶ないんですけども、少年団の方が多分万世閣との伝手でやってたような記憶がございます。ですから可能性はあるかなという感じはします。

○鈴木会長

はい、ありがとうございます。

後どうでしょうか。

○委員

すみません、今洞爺湖って遊泳禁止なんですか。

全部遊泳禁止なんですわね、じゃあ駄目ですね、わかりました。せっかく自然のプールがあるのに、昔は夏の間だけ、それこそ夏休みの期間だけ洞爺村の方はここが泳げますよっていう場所があって、温泉は温泉でここで泳げますよっていう場所があったんですよ。だからその期間だけ、そこで子どもたちの水遊びっていうんですか、どうしてもプールじゃなきゃ駄目なのか、水遊び的なことでいいのであれば、洞爺湖を使ってその夏の暑い1ヶ月間の中だけでちょっとそういうのもいいじゃないかなと思ったんですけど遊泳禁止だったら無理ですね。

○委員

遊泳禁止を解除すればいいだけの話じゃないですか。

○鈴木会長

ありがとうございます。結構今国の方でも全国的にプール事故っていうか水泳事故もあって、プール指導の安全・安心ということでの通知も国から出てるっていうのもあるので、なかなかその水遊びという、その境目がちょっと難しいところがあるかもしれませんけども。今一つのこの洞爺湖エリアの中で使える施設だとかっていうのはないだろうとか、今これ見ると資料も小学校が水泳指導という形でやられてるみたいですけど、それをどっか集約して、遠いところ時間はかかりますけどね。そういう教育活動の時間割を工夫しながらやっていくっていうのも、これからの考え方の一つかなとちょっと私も個人的に思いました。

ただ、当面の間必要な修繕をしながらということが一つあるので、その中でまたゆくゆくこういうようなこともどうだろうかっていうのは、各委員の方からもしお考えがあればお話いただければというふうに思いますけども。

○委員

学校の中だけでやるっていうのがすごく大変だから、学校ではないところでっていうところでいったときに、令和5年度がこの3回か4回ぐらいだとすれば、例えば何かプール教室みたいなのところに行くんだけど、町がお金を出して。それで子どもたちが放課後にそれぞれみんなで行くみたいな。そうすると全員参加ではなくなってしまうんですけども、それにプールの授業がない代わりにそれがあるっていうふうになると経費は相当削減されるのかと。

○角田社会教育課長

学校以外になると社会教育の領域になりますんで、授業でというよりは、社会教育の事業でプール教室をやると。それはやっぱり夏休みかなというので毎年やっております。学校だと安全面に関しては授業でやんなきゃいけないので、それだけ最低限それだけやればっていう感じなんです。あとは社会教育で受けるっていうのはありだと思います。

○委員

すいません、今のご意見を受けて、確かここの学校は冬にスキー授業を、あれは確かバスを貸し切りしてルスツまで行って、年2回なり3回なりされてると思うんですよね。自分たちのところにそういう施設がないのでそれと同じような感覚で、夏場で学校の授業の一環として、年2回か3回って言うのも、夏バージョンとして

ありなのかなって今個人的に思ったんですけど。ただ学校としては多分授業の配分があると思うので、その調整がまた難しくなってくるのかなと思うんですけども、冬のスキー学習の夏バージョンで、夏のプール学習のバスで行ってそこで2時間なり、ちょっと学習してくるっていうのもありなのかなって思ったんですね。

#### ○鈴木会長

どうもありがとうございます。

そういうような一つの案として、いわゆる洞爺湖町として小学校のプール授業といえますか、それをどういうふうにして考えていくのかっていうのを、教育委員会サイドでいろいろ考えてもらえればというお話でしたけども。

実は函館市もご承知の方もいるかと思うんですけど、去年水泳指導でバスが確保できなくて、水泳授業をやらないっていう議論になって、市議会でも話題になったという形で今年はバスを確保して、一応何とか水泳授業をやるっていう、そういうようなところもありました。そういう点では、水泳授業っていうのはやっぱり自分の命を守るといいますかね、体力増進もそうですけども、そういう点で施設がこうだということよりは、子どもの体力増進という視点で、やっぱり先ほど話がそもそもっていうところもぜひ考えていただくのも一つかなというふうに思いますので、ぜひそのあたりも事務局の方でご検討いただければなというふうに思います。

あとどうでしょうプール施設に関わってということで、よろしいですかね。

《なしの声》

ちょっと三つの項目ということで、ちょっと駆け足的に進めてまいりました。

まだまだちょっと言い足りない委員も他にたくさんいるかと思いますが、この後来月、そしてその次ということで進めていきますけども、また何かあればお出しただけねばというふうに思います。それでは、三つの議事について進めてまいりましたが、議事4でその他ということで何かありますでしょうか。

事務局、それから各委員の方から何かありますでしょうか。

《なしの声》

それでは事務連絡というか、その他ということで事務局の方からよろしく願いいたします。

#### ○細江教育推進課長

私の方から次回の会議開催についてなどをお話をさせていただきます。毎月の会議にたくさんの方にご参加いただきまして誠にありがとうございます。心からお礼申し上げます。

今回の会議開催ですが、11月14日木曜日午後1時半からの会議開催を予定してございます。何かとお忙しい時期かと思いますがご参加のほどどうぞよろしくお願いし

たいと思います。

この後、答申の案についても皆さんにご検討いただきたいと思いますので、すいませんお忙しい時期と思いますが、多くの方のご参加のほどどうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

それではいろいろ盛りだくさんの内容だったんですけども、各委員から積極的なご意見いただきましてどうもありがとうございます。来月また8回目ということでありますけれども、お忙しいところすいませんけども、お集まりいただければというふうに思います。

以上をもちまして本日の審議会の方を終わりたいと思いますどうもご苦労さまでした。

15時11分閉会